

# かさおか

発行所  
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)  
電話 66-1311  
FAX 66-1314



初代様使用の湯呑と茶托  
(岡本久善氏所蔵)

をやの思いをにをいかけ、

うちうち  
内治に心を配り おたすけに誠の心を尽くそう

1. 一歩前進 百万軒
2. おつとめの徹底とひのきしん
3. 機を逃さず おさづけの取次

# 立教167年 春の鼓笛隊大会

道の学生たちの祭典。立教百六十七年「春の学生おぢばがえり」が三月二十八日、「友とおぢばへくを、やの思いを胸にく」をテーマにおぢばで開催され、大学生・短期大学生・各種学校生・高校生から四千八百五人が参加した。

本部中庭で行われた式典で真柱様は、年祭の句に学生として相応しいお道の求め方、歩み方についてお言葉を下された。

## 鼓笛隊

長く厳しい冬も終わり、笠岡大教会の春の訪れを告げる風物詩、「笠岡団笠岡むつみ鼓笛隊春季講習会」が、大教会を会場に、今年も三月三十日から四月二日にかけて開催されました。少年会員九十三名、育成係四十名、総数百三十三名の参加者のもと賑やかに開催することが出来ました。

今、社会では少子化の波が押し寄せ、各種学校

式典後は五つの教区(岡山・広島・鳥取・神奈川・愛媛)から参加した学生が笠岡詰所に集合して直属アワーが行われた。

まず大教会長様より、「人間は何のために生きているのか?人のために役立つように生きている。おたすけをできるのがこのお道のありがたさである。学生層というのは自我に目覚める頃だから今はわかりにくいと

の閉鎖などが問題になっております。以前にユースで少子化についてのデーターを述べられていましたが、このまま日本が少子化状態で進んだらば、二百年後はつきり覚えていませぬが位には、日本の人口は一桁になる、という統計を出していました。二百年後まで私達は生きていないので分かりませんが、少なくとも五十五六十年後には、日本の総人口は極端に減少傾向へと下降していくのではないのでしょうか。そうしたことを思った時に、今少年会活動を通してお道の信仰を伝えていくことは非常に大切なことであり、大きな重責を



大教会長様を囲んで(直属アワーに集った学生たち)

思うが、わからないなりに人のためにという気持ちを持ち続けてほしい」とお話があった。その後全員で記念撮影。他己紹介の後、詰所にてカレーを頂き、マイクロボスで桜井市のボーリング場へ移動。みんなでボーリングを楽しんだ。

なお、参加者は学生二十四名・学担七名であった。

(学生担当委員

藤本芳久

担っているのではないかと感じずにはおられないです。確かに今は鼓笛隊員の数も少なくなっておりますが、五十、六十年先を楽しみに、出来る限りの努力を惜しまず、鼓笛に参加した子供達に、「鼓笛をやって良かった。鼓笛を通して学んだことが役に立った」と感じてもらえるよう、そして、少年会の柱である、「立派なよふぼく」に育ててもらえるよう、係員一同足並みを揃えて進ませてもらいたいと思っております。(余談ではありますが、このまま一般家庭の子供が少なくなりますが、逆に教会の子供が増えていくと、日本は天理教だらけになるのでは?と感じるのは私だけでしょうか)

か。)

今回の講習会も、最終日に「笠岡団おつとめまなび総会」でのお供え演奏を、親神様、教祖、そして総会参加の皆さんに見て頂きました。下は未就学から、上は中学三年生までの隊員が、一生懸命に演奏演技する姿は、いつ見ても感動を与えてくれます。私達はこの感動を味わうために鼓笛を続けているのではないかとも思えます。

まだまだ未熟な者ばかりですが、一生懸命に努めさせて頂きますので一人でも多くの少年会員の鼓笛参加をお願いします。

(鼓笛責任者 田中 隆之)

# おつとめまなび総会

少年会笠岡団おつとめまなび総会を、鼓笛春の合宿に引き続いて開催させて頂きました。

前夜からの雨も上り、晴天の中、四百名を超える参加を頂いて、にぎやかにつとめさせて頂きました。

神殿では、各下り、各鳴物ごとに、役目に当たっている少年会員がきちんと整列して育成会長様のご入場を待ちました。午前九時半より奏楽の中、

育成会長様の御臨席を頂き、

少年会員による祭儀式では、

緊張しながらも、おごそか

におちついてつとめる事が

出来ました。引き続き、坐

りづとめから十二下りのおつとめをにぎやかに、陽気につとめ、日頃の練習の成果を親神様・教祖に御覧頂きました。

おつとめ後は、式典で育成会長様より、子供達にとって身近な事柄から例を挙げて分かりやすくお話し下さり、続いて「誓いの言葉」

を全員で元気に唱和した後、わかぎ門出式が行なわれしました。この春中学を卒業する十二名の少年

会員に記念品を贈呈、副団長よりお祝いの言葉を頂いた後、別室にて学生会との引き継ぎ式が行な

われました。

神殿では鼓笛隊の御供演奏が行なわれ、合宿での練習の成果を見て頂こうと一生懸命演奏する隊

員に大きな拍手が贈られました。

昼食では、婦人会が作って下さいましたカレーライスをおなか一杯いただき、午後からのアトラ



クシヨンでは、各ブロックに分かれ、チーム対抗のゲームラリーを楽しみ、喜びの中、今年の総会を終えさせて頂く事が出来ました。

今日の日を迎えるに当り、役目に当っておられます少年会員のおつとめの練習の上には、お忙しい中、御指導頂き誠にありがとうございました。

又、婦人会・学生会、その他各会の方々に大変お世話になりました事を、この紙面をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

(少年会副団長 北川 治史)

# 談話室



## 聞き分け

油木分教会長 黒瀬修式

聞き分けの良い子は、親は一層可愛く、万人に好かれます。又、子供も、安心と楽しさの中で元気に育ち、強運に恵まれて大成の発展となりましょう。理に叶った安心の境地で生涯楽しむ事が出来、誰もが望み念掛けるところであります。

それが実際にはその様に出来なくて、努力の割には良い結果が得られずに悩み、更には絶望に陥る事さえあります。個性が強過ぎると人の云う事が聞かれない。自分の思いは通し度、それで良く行けば良いのですが、大抵の場合、逆の面で苦悩する事が世の中には多くあります。「なんぎずるのもここからわがみうらみであるほどに(みかぐら歌十下り目七ツ)」とお教え頂きます。

恥ずかしながら素直嫌いで強情者の私は、幼少の頃から人の云う事が素直に聞けず、もの事の理解が鈍く心の狭い性格のため、人と共に楽しむ事が下手でした。

親の信仰のお陰で助けて頂き、今日迄結構にお連れ通り頂いて参りました。親程に信仰熱心でない私ですが、親以上の重要な立場にお引き出し頂いて、お与え頂いた信者の修理丹精の上で苦勞し、我姿を鏡に写した様で恐ろしく目覚めさせられました。

深く反省して感じた事は聞き分けの大切さでした。耳が二ツに口が一ツ、ふたつ聞いて一ツ云えと云われた言葉が心にしみています。私事に、親から用事を云われて不満的な行動の時がよくありました。そんな時、親はいつも労いの声をかけて喜んでくれました。その度に「悪かったな」と心で思い一人で和んだものです。

親神様の用木と云えども心の未熟さから成すべく御用も心から喜んで出来ない、時に重たく感じる事もしば々、行動はするものの喜び心の薄い誠に申し訳ない事です。

親の声は先づ受けて納得、得心はさておき、行動出来れば結構、それが聞き分けであり、親にながっている限り、自分の心がどうあろうとも、親の理に守られて身の立つ様に救い上げて頂く。やりたくない事をして居る時こそ、親の心は子供に向けられ、不足が大きいだけ可愛さが増し、マイナスの分は親がかぶってでも子供の身が立つ様に、本当に、親程有難いものは御さいません。喜びも有難さも後で感じられるものでした。

おかさきげのお言葉に「言わん言えんの理を聞き分けるなら何かの理も鮮やかと言う。」と御さいます。成人への歩みを早めて、悔いのなき様つとめさせて頂かねばなりません。

時句のつとめは、皆拳って歩みをそろえてつとめ上げ成人の喜びを共にさせて頂こうとの親の声に応えさせて頂き度いと、我通りた道はふり返えず、只前向きにひたすら御恩報じを念じ一途に進む日々、心に新たな夜明けを感じています。ありがとうございます。



## 実践項目集計 (2月)

百万軒にをいがけ	64,454軒
おさづけのお取次	4,977回
身上事情お願い	982件
提出教会	120ヶ所

## 慈母の心で

廣町分教会前会長夫人 宮本 おふさ

憩の病院への御用を頂いて、五年位経った頃だと思えます。六十病棟泌尿科へ入院して居られた若いお方の事です。三十五才の若い青年で、母は早く亡くなられて、父も病弱と聞かされました。病の為に入信なさったのでしよう、お道には日も浅い故かベッドの枕もとにはみかぐらうた、教典、教祖御伝、教祖逸話集、元の理の本等々がキチンと揃えて並べられてゐました。三人部屋の一番奥のベッドに休んで居られましたが、未だ元氣もあり、笑顔で話もなさいました。

突然に口から出た言葉「先生!!」昔の先生方のように、一回のおさづけで、私をたすけて下さい。」想い余っての言葉なのでしょう。私は心臓の鼓動の収るのを待って、漸くにして「ごめんなさいね! 私にはその様な徳がないので、御期待にはそえないと思えます。すみませんねえ」と、おことわりを申しました。それでもおさづけを取ついでほしいと云はれ、己の不徳さを詫び乍ら、静に、ゆっくりと、おさづけを取つがせて頂きました。大分気分がほぐれたのか、僕にはお母さんが居ないので、まるで母の代りの様な気がします。こちらに來られたら、又お願いしますと云って下さい

した。それ以来、毎月お当番に來れば、先づこの青年Hさんのベッドを訪れてゐました。生一本でおさづけの理を信じ切つて居られる丈にいとほしく、自分の不徳さが情なく申し訳ない想い一杯でした。

月を重ねるうちに会話もよくなさる様になり、「一度甘露台へ参拝させてほしい」と申されます。その事は当時の婦長さんから、かたく禁じられてゐたのですが「また暖くなってお天氣の良い日におまゐりしましょうね。」と話をしておりました。

ある日彼の病棟を訪れた時、如何にも嬉しそうに、「先生! 先日甘露台におまいりして来ました。大変氣持が良かったです。」顔に笑顔がほころびてゐました。「誰が?」と不安な氣持ちがよぎります。「こんなに喜んで居られるのに、教祖よろしくお願いします」と祈らずには居れませんでした。

次に二席運び、何ヶ月かして「先生昨日お地場に参拝したのですが、疲れました。」といかにもさびしそう。だんたくとやせて行かれます。ベッドの横にゴムのお風呂を持参して、ナースさん三人係で、入浴されていねいに介護をして居られました。いつも誰か一人心掛ける様にと婦長さんより指令されてゐる様に思はれました。言葉も少くなり重い氣分が意識されます。若いだけに可愛想でなりません。お別れを云えばさびしがら

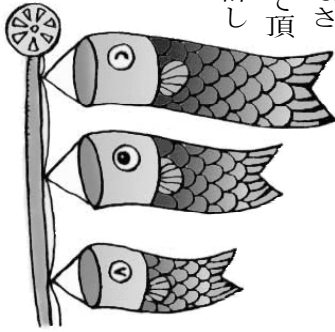
るので、目をつぶつておられる時にソーツと辞するので。御本部へ案内されたのは匂いがけの奥さんでした。

次のお当番に行つた時、同班の女子講師の方が「第一声!」とうとうHさん駄目だったのよ!!」と。何れはこの日が來るとはわかつてゐましたが、一つ心になって、講師達がこのHさんの身上に心をつくしていた丈にやはりショックでした。「そう! とうとう……」個室に移されて、でも安らかなお出直してしたよ。」胸が一杯になり、二人で泣きました。病人の助かつて頂く事のむづかしさ。不徳な自分の心根。「ごめんねHさん、でも三席も別席を運ばれて、教祖は喜んで居られますよ。今度生れ替つて來られる時は、あなたががんばられた理の重みで、きっと元氣な運命を頂いて帰つて來られますよ。」と、いつも訪ねてゐた病室を思い浮べ、頼り甲斐のなかつた私達をどう思つてあの世へ旅立たれて了つたのでしょうか。またこの世でお会い出来る日があればネーと。安らかにねむり下さい……さようなら。

六十六病棟でした。五十才台の奥さん。両乳を摘出なさつて、首からおへその下まで、まるでつき立ての白い餅を長く伸ばした様相でした。痛みはちゃんとドクターがついておられるので心配ありませんが、此の世をはかなんだ想が伝はつて來

ます。「先生おさづけを！」と乞はれ、三度三度又三度と静にゆっくりとまでさせて頂きました。「先生の手、暖くてきもちい、ー」と喜ばれ静になでるのを続けさせて頂きました。「おさづけを願うと、教祖がうしろから手助けをして下さるのよ、だから暖くなるのです。」と、辛い時、悲しい時、教祖おんがらくとお祈りして下さいね。心が洗はれ暖りますよ！と話しました。その方は退院なされた後、暫くして出直された様でした。

五十八病棟でした。六十才位の女の方、仰向けに休まれてゐるのですが、腹水がこれ以上ふくれない位にパンくにはれてゐます。ガンの末期です。お授けをとりつがせて頂くと、「先生の手は暖くて気持ちいい、このま、水がお小水となって出てくれたらネー。」と。腹水は冷いから、両手の暖味を余計感じられたのでしょう。患者さんに喜んで頂ける様なこのうは中々お見せ頂けない。情ない。ごめんなきいね！。暫くなせさせて頂いて心を残しつつ、辞しました。



## 「様々な客人」

明石市分教会長 杉原博之

好きなことが多くてあれもやりこれもやりそれがみな中途半端なんですね。でも結構それで人生を楽しんでいます。只今の楽しみは、メジロやヒヨドリの「バードウォッチング」。庭石の上や、紅葉の枝の所に小さいカゴを置きそこへリンゴやミカンを置くのです。するとメジロがすぐ飛んできてつつき始めます。ヒヨドリがバサッと飛んでくるとメジロは慌てて逃げてゆきます。何しろ体の大きさが随分違います。それにしてもどちらも何を警戒しているのか一口つついては、周りをキョロキョロしばらく見渡し、また一口。メジロなら警戒するのは分かるのですが、ヒヨドリも同じ事をします。もしかしてメジロはヒヨドリを警戒し、ヒヨドリはカラスを恐れているのかなあと思ったりします。メジロは可愛いのですが、ヒヨドリはどうも思っただけで餌やりを止めようかなあと思ったのですが、或る日ふと見ると、ヒヨドリが二羽並んでいます。頭の大きいのと小さいのでした。もしかしてこれは夫婦かなあと思っただけであ夫婦仲良くないかと思ひ直しました。父も縁側でひなたぼっこをすることが多いのですが、「お父さん、メジロが来ているよ」というと「本

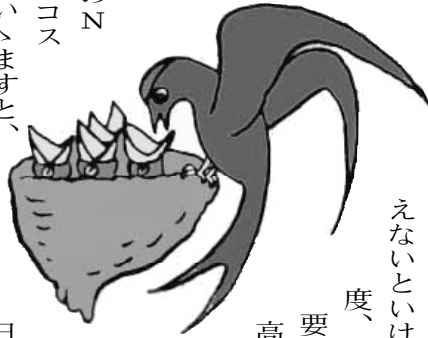
当や」と言っただけで楽しんでくれているようです。「虫、鳥、畜類などと、八千八度の生れ更わりを経て」と聞かされているので虫や畜類に生れ更りの時は嫌やけど、いやいや、一寸の虫にも五分の魂。それなりに意地も楽しみも持っていたらうなあ。それに人間になってゆく過程だから、明るい未来を見ていたのかもしれない。でも鳥は存外いいなあ、空を自由に飛べるしと、埒もないことを思っただけとすると時間も仲々いいもんです。こんな暇なことを考えているのは僕だけでしょね。ああ何というか……のんきな父さん……。教会の庭には猫も五匹程よく顔を見せます。散歩コースなんでしょうか。ある時ヒヨドリをじっと身を伏せて見ていたので、こりゃ危ないと思っただけで石を投げました(動物愛護の皆様、鳥を守るためです。お許し下さい)。メジロを追ってヒヨドリ、ヒヨドリを追って猫、猫を追って人間……。のどかなバトルの世界です。そういえば今まで猿が神殿でミカンを食べていたり、これは申年の元旦のことでした。イタチも天井を駆けまわってくれました。姿は見えていないのですが、ネズミよりも明らかに重量を感じましたので。犬も入って来たり、ヘビもいましたね。メダカも飼っていますし、セミ、トンボ、チョウチョ、かまきり他……。我が教会は人間以外によく訪れてくれるようです。

## いつも心に思うこと

笠岡詰所 吉岡松枝

詰所にこさせて頂き、早や、八ヶ月になります。お正月ぐらいから、足に身上をいたゞだきました。親神様より印をつけてもらったのです。有難いやら、思う様に動けないのがつらいやら、でもお陰で徐々に回復しています。

こちら(詰所)に来て、田町の地図を覚えるために、自転車で回っていたところ、昨年の秋です、コスモスの花に出逢いました。少しほしいなと思いつつ、何処の方のだろうかと、ご近所の方に尋ねると、田町のNさんの方ですよと教えていただき、そのNさんに或る日お目に掛かりました。コスモスを少しいただきたいのですがといゝますと、喜んでいくらでも取って下さいよ……。Nさんは喜んで下さる人にはいくらでも上げたいと、たくさん下さいました。詰所はコスモスの花で賑やかになりました。花が人と人との心を継いでくれます。田町のNさんとはそれ以来仲良しになり、おつきあいさせて頂いて居ります。八十年代の方ですが、とっても心の美しい方です。



扱て、幼い時の私の夢、大きな旅館のおかみになりたいなと思った事がありました。そして不思議にも、主人は大きなホテルの総支配人(又はアナウンサー)になりました。偶然にも今、そんな形になっています。不思議です(こゝは笑いかな)。

宿の売上げをふやすには、宿泊していただくなくてはなりません。そのためには、こちらがよく勉強して、宿泊して下さるお客さんのニーズに出来ないといけません。カウンター(受付)の人の態度、食堂の人の態度、底なしの親切が必ず要です。それが宿の売上げになります。

高速道路が走り、昔二〜三泊の方は一泊になり、そして日帰りを楽しむ人も出てきました。そういえば笠岡詰所もそんな感じがいたします。百日宿泊の修養生、一

科生、二十日前後の講習生、一日泊りの別席者と増えてまいりますと、詰所もコスモスの花、菜の花に敗けない、人の華が咲くことでしよう。

お帰りの皆様方に少しでもくつろいでいただける詰所になるよう努力いたします。

今、詰所では、全館に百二十年祭の唄が流れています。

## 母の五年祭を近くして

東福山分教会長夫人 枝廣陽子

もうすぐ、母が出直してから五回目の夏がやって来る。脳内出血で倒れて、意識の戻らぬまま帰らぬ人となった。年をとるにつれ、小さく丸くなってゆく母のものを、母の好きな物を少々下げて訪れ、信仰話をあれこれとした。もっぱら聞き役が多かったが、それが私にできるささやかな親孝行のつもりだった。しかし、母が出直して、私は、私が母に対して多少でも何かしてあげられる人間に成長したかのように感じていたのは、大きな間違いだったと思うようになった。きっと長生きしてくれるであろうと信じていた母の、突然の死のショックからなかなか立ち直れず、迷い子になって、見失った母を求めて茫然としている子どももの如く、何をすることも魂の入らないような毎日を送っていた。私の中で、こんなにも母は大きな存在だったのかと思ひ知らされた。回りの人は、「さすが、おばちゃんじゃなあ、ええ出直しをしたなあ、これでよかったんよ」と慰めてくれたが、とてもそんな気持ちにはなれず、ただくもつと生きていてほしかったという思いが、胸の中を駆けめぐるだけだった。あれから五年、両親の居なくなった家には、かわいい三人の孫が誕生し、再び賑やかになった。月に一度だが、母の代わりにと

始めた子守りも、我が子を育てる時は、ただく一生懸命だったが、孫を看るってこんなのかな？と思うような余裕も感じる。「かわいさ」である。背中に負うて守りしながら、三人の子を連れて、見てくれる親の居ない中勤めるのはたいへんだ。これで母が生きていて世話をしなければならなかったら、もっと苦勞かけたなあ、これでよかったんだあとやっと思えるようになった。

母は、よく道の書籍を読んで心に感ずる所があれば書き出して貼ったり(天井から)下げたりしていた。いろんな道中があった中を、一生懸命教える求めて前向きに努力していた母。そんな母の姿は、心しっかりやきついている。

最近よく頭に浮かんでくるのは、いかに死ぬかより、いかに生きるか、ということである。遠くに、立派な形の目標があるように思って、ドツポにはまってしまふことの多かつた私だが、いちばん大切なのは、今、ご守護を感じて信仰を喜べることなんじゃない？それでなくちゃ匂いがけなどできないし、子どもたちに信仰の喜びなど、どうい伝えられない、……と気付きながらもあくせくしている私だが、私なりの精一杯の努力を神様は受け取って下さるのか、何度もドツポからはい上がる手を差しのべてくださった。先のことを考える余裕のない毎日だが、母のように教えに心の向きを正しながら、一日くを大切に過ごしていきたい、とそんなように思う。

## こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌四月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「陽」、撰六十九句中、笠岡に繋がる教友の方四名、四句が見事撰ばれ掲載されましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

秀 詠 東悠分教会長夫人 田 林 美智子

ゆずり合いたすけ合いつつ 陽気になる

秀 詠 芳井分教会長夫人 佐藤 香苗

陰陽なた無き道歩む 真実の道

準秀詠 芳阪布教所長夫人 杉原 優子

陽だまりで救済バザー 境内地

佳 詠 川島郷分教会前会長 香取 敏子

節幾重ただ一すじの陽を求め

▼呉市・東濱十三雄さん(福順分教会長)よりの寄稿です。

### 病喜録のうた

いつの間に寒冷前線消えてゆき

桜前線 黒潮に乗り

点滴を 数えながらも 知らぬ間に

うつらうつらと 春の海行く

しみじみと想い浮かぶは をやの思

桜月夜の 舞う花びらに

### 天理教の詩

鶴眞分教会長 寺下 宏一

一 てんりの教えを知っているかい  
親神様は人間を作ったもうた  
おかあさま 作りたもうた

おとうさま どの海中より始めかけ

二 てんりの教えを知っているかい

世界中の人間は 皆々神の子供やで  
世界中の人間は 皆んな皆んな

他人なんてあるものか  
きょうだいや

三 天理の教えを知っているかい

親神様が人間作った目的は  
皆んなが楽しく くらすのを  
神もそれ見て楽しみたいと

その目のくるのが待ちどおしい

四 てんりの教えを知っているかい

婦夫をこしらえ此れが此世の始めだし  
昼のお空に太陽が熱ぬくみ  
夜のお空に月様が水に風

五 てんりの教えを知っているかい

やまいの元はなんでしょね  
天よりもらった手紙かも  
人様と皆んな仲良くしてますか

我身ばかりがかわいいと  
心につもった ほりかも

六 てんりの教えを知っているかい

人間の体はもちろん  
親子や夫婦や兄弟も  
みんな神よりかりものや

心一つが自分の物や

聞いてたのしみ見てたのしんで  
日々たのしみ陽気ぐらしや



## 三月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には「月日にハセかいぢううハみなわが子 かはいい、ばいこれが「一ちよ」との親心のまに、く、昼夜を分かつたずお見守り下さり句々の御恵みを以てお育て下さいます事は誠に有り難く存じます 又大難を小難にして身上事情に現わして陽気ぐらしへとお導き下さっております事は更に有り難く勿体ない極みでございます 私共は成ってくる理に親心を思案し時には迷いつつも常に御恩報しの思いを胸に朝夕に御礼申し上げると共に世界一列救けたいとの親心にお応えすべく日々はたすけ一条の御用の上に勤め励まさせて頂いております その中にも今日の吉日はこれの名称にお許しを戴いた月次の御祭日でございますので只今からおつとめ奉仕者一同喜び心も一入に明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりをつとめて三月の月次祭を執り行なわせて頂きます 御前には同じ喜びに満ち溢れた子供達が寄り集い日頃の御高恩に改めて御礼申し上げる皆の真実の状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて一月には直轄教会へ二月三月には部内教会へと巡教を重ねさせて頂き教祖百二十年祭に向かう三年千日と仕切つての成人の歩みの二年目に当たり「ひながた」への思いを更に深め共に励まし合い助け合つてたすけ一条のひながたの道を辿らせて頂くことを誓い合わせて頂きました そして道の先達大会や各教会でのにいがけ・おたすけ実修会を通してより活発に楽しんで実践項目の実動に邁進させて頂く覚悟でございます

又卒業入学就職のシーズンに加え春の学生おちば帰る鼓笛少年会おつとめ学び総会等子供達と接する機会が増えましたので一人ひとりに一言でも多く声を掛け道の後継者育成へと繋げて行く所存でございます

何卒親神様には句々にお掛け頂く親の声を頼りに成人の道を歩む皆の真実の心をお受け取り下さいます万たすけの上に願う心の誠の理に自由の御守護を賜り人々の心を我さえ良くばから救け合いの心に立て替えて下さいますとお望み下さる陽気づくめの生活ぐらしへとお導き下さいますように一同と共に慎んでお願い申し上げます

## 春季霊祭祭文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます本席様の御霊初代真柱様並びに奥様の御霊二代真柱様の御霊中山家御先祖の御霊大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の御霊初代会長上原さと刀自の御霊二代会長上原伊助大人光刀自の御霊三大会長上原繁雄大人くに多刀自の御霊四代会長上原郁雄大人の御霊笠岡の道の始め頃より長の年月歴代会長と共にご苦労下さいました役員部内教会長教人よふぼく信者の御霊諸々の御霊の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

御霊様方には早くから親神様教祖のお見定めにより身上事情を通してこの道へ引き寄せられ親神様の世界一列救けたいとの思召に込めるべく又我身我家の因縁納消をすべく私利私欲を捨て生きの限りたすけ一条の上に勤められました 今日この道の結構な姿をお見せ頂いておりますのはひとえに親神様教祖の御守護お導きの賜であることは申すまでもありませんが一つには御霊様方の真実の伏せ込み理作りのお陰でございますので朝夕怠ることなく御礼申し上げます先人に続けとばかりに日々たすけ一条の上に邁進させて頂いております

その中にも本日は春の霊祭を執り行う定めの日柄でございますので今は親神様の御前にてをどりをつとめさせて頂き続いて御礼に上がらせて頂きました 御前にはゆかりある人々が寄り集い海山川野の草々の物を供えて在りし日の面影を偲び御遺徳を称え改めて御礼申し上げますを御覧下さいまして御霊様方にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて教祖百二十年祭に向けて成人の歩みも二年目に入っております昨年一年の反省をふまえしつかりと「ひながた」を見据えて辿らせて頂くべく自ら苦勞を求めてたすけ一条の実動の上に勤め励ませて頂く所存でございますので到らぬ点は多々ございますが温かく御見守り下さり家門の栄えはもとより理の栄えを御守護頂きますようお願い添えの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

## ◆立教167年 全教一斉ひのきしんデー

【期 日】 5月16日(日)実施

全教一斉ひのきしんデーは、ひのきしんに真実を尽くす一人ひとりが、日を含ませ、場所を定めて結集し、大きな力で地域に貢献しようというものです。欲を忘れ、ひたすら感謝の喜びに汗を流す姿は、自ずと人々にさわやかな印象を与え、良いにをいをかけていくことになるでしょう。さあ、一手一つに勇んでかからせて頂きましょう。

## ◆婦人会笠岡支部「ひまわり会 おつとめ大会」

【日 時】 5月23日(日) 午前9時 受 付  
9時30分 開 会

【場 所】 笠岡大教会神殿

【内 容】 午前の部  
十二下り 総立ち てをどりまなび  
支部長様 おはなし

昼 食  
午後の部(12時30分より)  
講 話 早 樫 一 男 先生

臨床心理士  
京都府 知的障害者 更生相談所 所長補佐  
ファミリーセラピスト

【対 象】 26才～40才位の女性

【参加御供】 500円  
※扇は各自でご持参ください。

## ◆こかん様に続く会

【日 時】 6月5日(土) 午後5時 受 付  
午後5時半 開 会  
6日(日) 午後1時 閉会予定

【場 所】 笠岡大教会

【内 容】 支部長様お話、ひのきしん、にをいがけ、お楽しみ行事等。

【対 象】 中・高校生

【参加御供】 ￥500

【主 催】 婦人会笠岡支部女子青年  
\*大勢の参加をお待ちしております。

## ◆直属ひのきしん五日隊第4次隊

【期 間】 6月11日～15日

## ◆縦の伝道講習会

【と き】 6月21日(月)

【と ころ】 笠岡大教会

【内 容】 少年会本部委員によるお話し  
「親から子へ、たすけ一条の心を伝えよう」  
「教会おとまり会と親子参拝の実施」

【対 象】 教会長夫妻、布教所長、隊育成委員長、よふぼく、信者

## ◆婦人会伏せ込みひのきしん団参

- 【日時】 6月27日(日) 正午  
 【場所】 西礼拝場、本部西境内地拡張整備ひのきしん現場  
 【内容】 正午 お礼参拝 (西礼拝場)  
 午後1時 ひのきしん(午前中ひのきしんも可)  
 (雨天、神殿回廊ひのきしん)  
 【対象】 婦人会員

## ◆青年会笠岡分会 伏せ込みひのきしん&amp;別席団参

教祖120年祭に向かうこの旬に、おぢばに真実を伏せ込ませていただき、共に汗を流し、親神様・教祖にお喜び頂きましょう。簡単な軽作業も予定しておりますので、女性・お子様ふるってご参加下さい。

また、昨年同様に別席団参を併せて行います。初席者、また運び中で足が遠のいておられる方もぜひご参加下さい。

- 【日程】 6月27日(日) 9:00~14:00頃  
 【内容】 こどもおぢばがえり おやさとパレード フロート製作作業  
 ※ペンキ等を使用する作業も予想されますので汚れてもよい服装  
 をお願い致します  
 ※詳細については下記各ブロック担当者までお願い致します
- |        |      |              |          |
|--------|------|--------------|----------|
| ・直轄1・2 | 浅野明教 | 0865-66-1311 | (大教会)    |
| ・福山    | 藤本晴司 | 0848-44-0636 | (西村分教会)  |
| ・高屋    | 瀬良昇  | 0862-96-3245 | (高児島分教会) |
| ・島根    | 門脇裕教 | 0852-34-0505 | (島根分教会)  |
| ・久松    | 中村真人 | 084-922-4324 | (久松分教会)  |
| ・上下    | 高田一弘 | 0847-41-5617 | (真府分教会)  |
| ・府中市   | 山田睦浩 | 08472-2-0254 | (甲井分教会)  |

◆各行事に参加ご希望の方は、  
各ブロックの担当者にお申し込みください

## 第758期修養科募集要項

## \*修養科期間

立教167年6月1日~8月27日

## \*教養掛

- |      |      |                 |
|------|------|-----------------|
| 3ヶ月間 | 岡崎和夫 | (大教会役員・弥高山分教会長) |
| 1ヶ月目 | 川上道美 | (伯仙分教会長)        |
| 2ヶ月目 | 丸山勤  | (木津和分教会長)       |
| 3ヶ月目 | 鳥井利昭 | (福勇分教会長)        |

## \*募集要項

- ・志願者は、6月末日現在で満17歳以上で、下表の必要書類を携え、上級教会を経由して大教会に順序参拝すること。
- ・5月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、8月29日の昼食後に解散。

\*詳細はバックナンバーを参照願います。

# ・原・稿・募・集・

**内 容**  
**字 数**  
**寄 稿 先**

①小随筆、②教会・布教所の独自の活動の紹介、  
③俳句・和歌・川柳、④教会行事開催後の報告記事 等々  
1000字前後(800字~1200字)  
題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。  
俳句等は1句からでも結構です。  
下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。  
郵便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377  
FAX：0865-66-1314  
尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。



## 大教会だより

### ◎本部保安室境内掛

自 立教167年4月1日  
至 立教168年3月31日  
弥高山 岡崎和明

### ◎修養科一期講師

自 立教167年4月1日  
至 立教167年6月27日  
東福山 枝廣隆文

### ◎教会長資格検定講習会修了者

前期 立教167年4月14日終講  
皆部 松永布起子  
福勇 福島サキ子  
上備 田淵忠明

### ◎直属ひのきしん五日隊

自 立教167年4月1日  
至 立教167年4月5日  
\*世話班  
金浦 西江昌直  
高屋 武内清明

### \*参加者

久松 中村 剛史	海松ヶ岡 宮崎 智司	菅野 笹尾 正治	引野 谷屋 富男	福昭 平盛 尚樹	福東 藤井 宣人	恵陽 西平 和史	香地華 渡辺 美恵子	稲倉 高島 裕一郎	海潮川 高島 寛	出雲川津 奥村 安雄	天場山 仙田 喜久雄	鶴真 寺下 宏一	作備 三宅 一正	眞府 高田 一弘	上父 瀬尾 道行	上父 小林 ヨシエ	府世原 高信 公枝
----------	------------	----------	----------	----------	----------	----------	------------	-----------	----------	------------	------------	----------	----------	----------	----------	-----------	-----------



会場が分らないので連れて行って欲しいと頼まれ、私も知らないが地

図を頼りに行けば何とかなるだろうと三台連らなって出発した。

ところが会場の近くまでは来ていないが、どうしても分らない。開始の時間が、どんどん迫って来る。後続車の運転手が「先に到着している。〇〇さんに聞いたら」と携帯を貸してくれた。いくら聞いても自分の位置すら不明なので、右も左も分らないとは、この様な事かと思った。ぐるぐる廻っている内に後続車の方が先に駐車場を見つけて何とか間に合う事が出来た。

実は「JR〇駅まで行って」を怠り、車を進めた為、自分の居る所まで分らなくなった。

カーナビと言う便利なものは、出発地点と現在進行している車の位置と目的地がいつでも分かる様になっているので、それを守れば車を誘導してくれる。

この三点は、信仰の元一日、因縁の自覚、陽気ぐらしと言えないだろうか。

原典や教祖ひながたと、常に照し合せながら人生を進めて行けば道に迷うことはないと思う。